

## ● 連合会・労協Gだより

5月21、22日、連合会第16回総会が開かれた。今回の総会では、労働者協同組合の社会的存在意義、21世紀への任務を提起した。第2次中期計画の中心スローガン、「生命・労働・地域の再生」「非営利組織の大連合」は、心ある多くの人々の共感を得ていくであろう。

総会には、スペインのマドリッド労働者協同組合連合会の理事長ルーベン・ビジャさん、中国工合国際委員会副秘書長の高復金さんを招き、国際連帯の新時代へ足を踏み出した。

また、パラマウント製靴、無茶々園、黄柳野協同組合、C&Cが新しく加盟し連合会の質の変化が目に見えてきた。

今回の総会は連合会設立15周年の総会でもあり、退任される内田前理事長、大槻前副理事長、黒川理事、浦沢理事の4人の功労者に感謝状を送った。

## ● センター事業団だより

5月12日「院内感染問題」の学習会を行った。病体生理研究所の福井徹先生を講師に、細菌の基礎から民医連16病院での実験のまとめを行ってもらった。ヒノキチオールを持続効果が顕著にあらわれ、継続して使用することが更に効果を高めることが報告された。今後「耐性問題」が気にかかるが、これは琉球大学の武井教授等に研究をすすめて頂いている。以内感染問題が病院選択の一つの基準になる昨今であれば、病院メンテの立場から環境の浄化に取り組む意義は今後ますます高まると確信している。全国の研究者ともネットワークを組んで成果に結び付けて行きたい。

96年度事務局員候補の採用活動がスタートしている。リクルート情報によれば、昨年からの留年組と所謂第2次ベビーブームの卒業人数がピークにあたり、昨年以上に厳しさがあるとのこと。センター事業団へも多数の資料請求があり、沢山の学生に労働者協同組合を知って貰いたいのだが、面接の都合もあり人数を制限せざるを得ない。担

同時に、年間の事業・運動に功績のあった事業団・事業所を表彰した。愛知高齢者事業団、粕屋中老年事業団、センター盛岡、センター東京の4カ所である。この2つの表彰にひとつの時代を感じる。全日自労の先駆的とりくみとそれを飛躍的に発展させていくであろう新たな芽。

総会后、地域事業団の総会が各地で行われた。これまでの努力に敬意を表しつつ、「大胆な」改革が必要との危機感も否めないという実感を参加して感じた。

青島東京都知事の世界都市博覧会の中止決定。総会後の初仕事がこんな劇的なこととは思わなかった。この「快拳」に、全国へ激励の行動を直ちに呼びかけるとともに、都知事室へ激励にさっそう出かけた。無党派層の怒りは、「生命の尊厳」の方向に着実に動き始めている。

鍛谷 宗孝 (労協連合会・専務理事)

当者は苦勞しているようである。

5月に入り第10回総代会の準備に本部は大忙しであったが、377人と過去最大の参加にホッとした思いでいる。センター事業団は組合員2045人・事業高60億の規模となった。既に「労協新聞」に掲載されているが、労働者協同組合として質の高い仕事と全組合員経営の水準を示す発言が相次ぎ第1次中期計画を締めるに相応しい総代会になった。役員も新たに選任され、第2次中期計画へ臨む新しい体制が確立された。6・7月は人事異動の季節となる。ちなみに私は無任所の常務理事として最後の「センター事業団だより」を書いている。

坂林 哲雄 (労協センター事業団・常務理事)